

花き・茶の生産安定と経営発展（茶）

成果の要約

- 1 新型コロナ関係の交付金を活用する等、関係者と密に連携を行い、生産者数や栽培面積の維持が図られた。産地維持、茶業経営安定に向けた問題を共有するため、今後の10年先の産地課題について意見交換を行った。
- 2 生産履歴等のデータを活用し、茶園管理や製造技術の改善に努めた。活動の成果が波及してGAP認定工場が5工場に増加した。
チャトゲコナジラミの天敵シルバストリコバチを活用した防除体系を推進した結果、管内におけるチャトゲコナジラミの密度低下に繋がった。
- 3 販売力向上志向農家の課題に応じた支援を行った。

1 対象

- (1) 出水地区茶業振興会 6工場
- (2) 鹿児島いずみ農協茶業部会 31戸
- (3) 出水地区茶業振興会 K-GAP 部会 5工場
- (4) 販売力向上志向農家 2戸

2 課題を取り上げた理由

- (1) 近年、茶業経営は厳しい状況にあり、生産者・栽培面積が減少している。産地体制の維持、茶業経営の安定を図るため、生産者組織等への積極的な支援が必要である。
- (2) 各工場が掲げている生産性もしくは売上目標を達成するため、生産工程の改善を進める必要がある。作業効率、品質収量に影響を及ぼしているチャトゲコナジラミへの防除体系の定着を進める必要がある。
- (3) 取引先の要望に応じた台湾向け茶生産に向けた支援や、小売茶の品質向上、消費拡大活動の支援を行い、市場取引以外の新たな販路拡大を目指す農家を支援する必要がある。

3 活動の内容及び成果

- (1) 産地規模の維持
ア 組織活動強化による茶業経営安定化支援
生葉農家組織を中心に時期別の集団研修を実施、茶工場経営者には課題に応じた

巡回指導と生産力の高い茶園づくりを支援した。さらに、今後10年先を見据えた産地のあり方について意見交換を行った。

組織内で厳しい状況を乗り越える方策を検討した結果、新型コロナ関係の交付金を活用した経営支援を行い、生産意欲の減退防止を図り、目標である生産者数・栽培面積が維持できた（写真1）。また、「かごしまブランド」を新たに2工場が取得した。



写真1 新型コロナ関係交付金の活用検討

- (2) 高品質、安定生産技術の向上
ア GAP活用による生産工程改善支援
GAP認定茶工場が立てた目標を達成するため、生産履歴等のデータを活用した茶園管理・製造技術の見直しを行い、新たな病害虫技術の波及に繋がった。
その結果、K-GAP認定茶工場が4工場から5工場に増加した。

イ IPM 技術を活用したチャトゲコナジラミ防除支援

チャトゲコナジラミの天敵であるシルベストリコバチの導入を進め、薬剤と茶園更新を組み合わせた防除技術を推進した。

上記の防除技術を導入したチャトゲコナジラミの発生状況を調査した結果、密度低下が確認できた。また、使用している薬剤は天敵に影響の少ない薬剤であったこと、導入した天敵も定着していることを確認できた。目標であるチャトゲコナジラミの低密度・安定期に移行した茶団地数が増加し、地域全体として密度低下が認められた(表1)。

表1 天敵放飼茶園のチャトゲコナジラミ寄生状況

地点		甚 (80以上)	多 (61-80)	中 (41-60)	少 (1-40)	無 (0)	平均 寄生密度
出水市	A工場(くりたわせ)	0	0	0	27	23	1.40
出水市	A工場(さえみどり)	0	0	0	27	18	3.12
出水市	A工場(さきみどり)	0	0	0	9	41	0.32
出水市	A工場(上場地区)	0	0	0	27	23	1.66
出水市	A工場(大川内地区)	0	0	0	29	21	2.06
出水市	B工場(さえみどり)	4	3	6	33	4	31.92
出水市	C工場(高尾野地区)	0	1	0	29	20	7.52
長島町	D工場(あさのか)	0	0	0	9	41	0.22
阿久根市	E工場(やぶきた・有機)	0	0	1	25	24	3.72
出水市	F工場(上場地区①・有機)	0	1	3	30	16	11.70
出水市	F工場(上場地区②・有機)	0	1	3	30	10	22.74

(3) モデル経営体の経営改善実践支援

ア 販売力の高い茶経営体に向けた支援

相対取引業者から依頼された台湾向け茶に使用できる薬剤の選定や、小売茶の品質向上、消費拡大活動を通じて、茶市場取引外の販路拡大を志向する経営体支援を行った。

台湾向け茶で使用する薬剤選定については、薬剤リストを作成し防除作業に活用してもらった。新型コロナ禍の影響で、二番茶出荷の契約はなかったものの、出荷契約があった三番茶、秋冬番茶は問題なく取引された。

小売茶の品質向上支援については、対象農家とブレンド内容等の検討を継続的に行い、前年の1000円売りに続いて、500円売りの小売茶で「かごしま標章茶」審査に合格するなど、品質向上が図られた。

消費拡大活動支援については、出水市の10小学校、延べ414名に対して、「お茶の淹れ方教室」を開催し、出水茶のPRと消費拡大に努めた(写真2)。



写真2 小学校でのお茶の淹れ方教室

4 今後の課題

- (1) 組織活動の充実と産地維持に向けた今後のあり方の検討
- (2) 経営体に応じた高品質、安定生産技術の支援とチャトゲコナジラミの低密度・安定期への移行・維持に向けた支援
- (3) 市場取引以外の新たな販路拡大に向けた支援